

JIM-NET 便り

2026 7月号

発行：2026年7月30日



特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C
電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

イラン戦争下でのイラクの現状

酒井啓子

(JIM-NET 理事、千葉大学国際高等研究基幹特任教授)



二月末に始まった米・イスラエルの一方的なイラン攻撃は、湾岸諸国を巻き込んで世界経済にも深刻な影響を与えている。しかし、その被害を直接的に受けているのは、隣国のイラクだろう。

イラクは、過去 10 年間 400 万から多い年では 480 万バレル／日の原油を順調に輸出し、特にウクライナ戦争以降の石油需給逼迫によって原油価格が上昇、原油輸出金額は 2022 年には年間 1150 億ドルにも上っていた。だが、イラクの交易は専らペルシア湾深奥のファオ港に依存している。原油輸出も同様のため、イラン戦争開始後は原油輸出がほぼ全面的にストップしている。苦肉の策としてシリア経由・陸路で原油を輸出することでまとまったといわれているが、その他トルコ経由のパイプラインなどはメンテナンスがなされていないため、すぐには役に立たない。国庫がいずれ空になるだろうことが予想され、公務員への給与や諸手当の支払いが滞ることが危惧されている。

経済的危機以上に苦境にあるのが、内政だ。イラクではイランと太いパイプを持つシーア派イスラーム主義政党が常に与党として政権を運営してきたが、その政府

の最大の課題はイランと米国のバランスをどう維持するかだった。しかしイラン戦争で両国が直接対峙したことで、親イラン派の民兵がイラク国内の米軍基地などを襲撃するという事態が発生している。特に標的になっているのがクルディスタン自治区で、欧米企業の支店なども多いこの地域では、米軍のプレゼンスに依存している面が強い。そのクルディスタンの米施設は、開戦後頻繁に親イラン民兵組織に攻撃され、あわや内戦との状況も見られる。南部のバスラは、クウェートなど近隣産油国への攻撃拠点に利用され、湾岸諸国との関係も緊張しつつある。

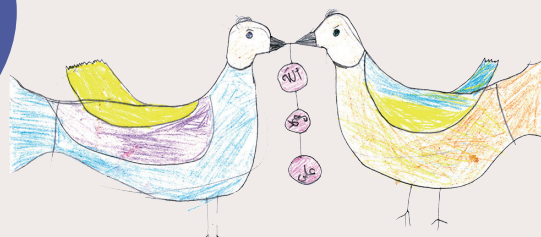
この春新たに就任した若手首相は、米の要請にこたえてこれらの民兵の武装解除を進めようとしているが、親イラン民兵組織は IS（イスラーム国）がイラク国内で猛威を振るったとき、唯一これを掃討するのに貢献した経緯があり、一部の国民には支持されている。さらには親イラン系政党が与党連合のなかで大きな議席を占めているなかで、どこまでイランの影響力を排除できるのか。米国の無理難題とイランの圧力に挟まれて、極めて困難なかじ取りが求められている。

目次

イラン戦争下でのイラクの現状 酒井啓子 (JIM-NET 理事、千葉大学国際高等研究基幹特任教授)	P1
シリア北東部緊急支援クラウドファンディング＜第二次支援のご報告＞ 大嶋 愛 (ファンドレイジング担当)	P2-3
Pray for Peace!～イラク、シリア、そして世界の子どもたちとともに 広報チーム	P4-5
イラン戦争下のチョコ募金／3 コマ漫画／春募金ご報告	P6-7
お別れのご挨拶と、緊急退避のお話 大川梨恵	P8

シリア北東部緊急支援クラウドファンディング第二次支援のご報告

大嶋 愛 (ファンドレイジング担当)



2025年3月にシリア北東部緊急支援クラウドファンディングを呼びかけ、1カ月間で296名の方から2,433,191円の貴重なご寄付が集まりました。第一次支援として、シリア国内支援プロジェクトの現地パートナー団体「クルド赤新月社 (KRC)」とJIM-NETの協働で、幼児用ミルクとモバイルクリニック（移動式簡易診療所）の医療器具等、特に現地で要望が強いものを対象に約108万円分の支援を行いました。

その後、日本からシリアへの送金が困難な状況が続き、子どもも対応に苦慮しておりましたが、ようやくこの3月に第二次支援の送金手続きを終えることができました。クラウドファンディング実施から時間を要しましたが、お陰様で頂戴したご寄付は、現地で活用させていただきましたことをご報告申し上げます。

その間にもシリアでは、2026年1月初旬に暫定政府の治安部隊とクルド人主体の武装組織「シリア民主軍」(SDF)の軍事衝突が激化し、アレッポ周辺から14万人以上の避難民が発生したと言われています。2025年と2026年の2つの大きな避難の波が重なり合ったことで、多くの人たちを受け入れているシリア北東部では対応しきれないほどの人道危機的状況が生じています。

第二次支援としまして、下記のとおり、カミシリ（シリア北東部ハサカ県の都市）のがんセンターへの抗がん剤等の支援、そしてモバイルクリニックにおける小児科・婦人科・内科の薬に役立たせていただきました。

内容	支援額	支援内容	備考
がんセンター	10,000 USD	抗がん剤等	2~3月の費用の60%
モバイルクリニック	7,000 USD	小児科・婦人科・内科の薬剤	2~3月の費用の70%

※ クラウドファンディングの残金約121万円とシリア国内支援の予算約147万円を合わせて送りました。(レート1ドル=157.66円)

クルド赤新月社 (KRC) では、医薬品不足や価格高騰、道路封鎖や国境検問対策等、さまざまな困難を乗り越えながら、『すべてのニーズを満たすには不十分で限られた支援であっても、苦痛を和らげ、命を救う』という信念のもと活動しています。ヨーロッパの複数のNGOが集まり、2012年よりシリア北東部に拠点を置き、国際人道法に基づき活動しており、UNICEF、WHOや欧米の大手NGOなども資金提供をするなか、JIM-NETのシリア国内支援でも、協働を継続しております。



カミシリのがんセンター



モバイルクリニック前にて相談に応じるスタッフ



モバイルクリニック内部



支援した医薬品

アルビル事務所 リーム・アッバスからの お礼の言葉

拝啓

ご支援者の皆さまへ

長年にわたりお寄せいただいているご支援に、心より感謝申し上げます。

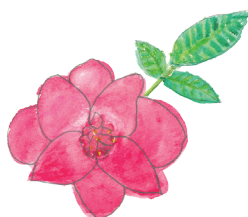
シリアで紛争が始まってから14年以上が経ちました。そのような長い年月が過ぎた今もなお、シリアの人々のことを忘れず、寄り添い続けてくださる方々がいることに、深い感謝の気持ちを抱いています。皆さまの思いやりと寛大なご支援、そして変わらぬご尽力は、困難な状況に置かれた数え切れないほどの家族にとって大きな支えとなってきました。

多くの人々が「解放」と呼ぶ状況を迎えた後も、シリアの人々は依然として基本的なサービスや生活必需品へのアクセスに苦労しています。日々の暮らしのさまざまな場面で課題は続いており、復興への道のりはまだ長いものです。

皆さまからの継続的なご支援は、生活の再建と子どもたちのより良い未来のために努力を続ける地域の人々に希望を与えています。そのことに対し、私たちは心から感謝しています。

シリアの人々を代表して、改めて感謝申し上げます。そして今後も、シリアとそこに暮らす人々のことを心に留め、関心を寄せ続けていただけますようお願い申し上げます。皆さまの連帯とご厚意は、今もなお非常に大きな意味を持っています。

改めまして、皆さまの変わらぬご支援とご厚意に深く感謝申し上げます。
心からの感謝を込めて



敬具
リーム・アッバス



Pray for Peace!

～イラク、シリア、そして 世界の子どもたちとともに

広報チーム

神保町・文房堂ギャラリーでの企画展も今回で4回目を迎えました。今回の企画展を前にした2月28日には、再びイスラエルと米国によるイラン攻撃が開始されました。イラク戦争から23年が経過し、ようやく「戦争」の影が薄らいできたと感じていた矢先の出来事でもあり、何とも言えない複雑な思いを抱えながらの開催となりました。

例年は、イラクを訪問・取材された方々の写真をお借りして展示を行ってきましたが、今回は昨年末に急逝したバスラのスタッフ、サブリーンの人生をたどる写真と文章を中心に展示しました。

サブリーンは10歳の時に小児がんを患い、その後もさまざまな病気を乗り越えながら人生を歩みました。そして、自らの経験を生かして、小児がんに苦しむ子どもたちやその家族に寄り添い続けてきました。「いのち」を大切にし、人の役に立つことを実践しながら、一人の女性として日々の暮らしも大切に生きた彼女の姿に触れていただきたい——そんな思いから企画した展示でした。

また、例年のギャラリー展では、治療中の子どもたちが描いた「将来の夢」を展示してきました。しかし、今回届いた作品からは、子どもたちが「戦争」に巻き込まれている現実がこれまで以上に色濃く伝

わるものでした。病気と闘うだけでなく、不安定な社会情勢や暴力の影響のなかで暮らさなければならぬ子どもたちの姿に、改めて胸を打たれました。

会期中には例年同様、イベントも開催し、多くの方々にご来場いただき、新たな出会いにも恵まれました。20日には、長年JIM-NETの活動を応援してくださっているピアニスト、ウォン・ウィンツァンさんをお迎えしました。ウォンさんの奏でる美しいピアノの音色に耳を傾ける贅沢な時間続き、イラン戦争だけでなく、ウクライナやガザについても触



ギャラリー展の様子

れられたお話は、「戦争」が決して遠い国だけの出来事ではないことを改めて考える機会となりました。

また、ちょうどバヌアツから帰国されたばかりのYaeさん（半農半歌手）からは、企画展に先立ち、「この戦争は止めなくては！」とご連絡をいただきました。当日はウォンさんの伴奏に合わせて力強い歌声を披露してくださり、会場は大きな熱気に包まれました。平和への願いを共有するひとときとなり、来場者の皆さまの大きな笑顔がとても印象的でした。（♪来年はオールナイトライブになるかもしれません!?）

21日には、2023年から企画展の設営に携わってくださっている映像監督・川田淳さんをお迎えしました。川田さんは美術の仕事の傍ら、2019年から同じマンションに暮らすクルド人の子どもたちに日本語を教えるボランティアを続けており、昨夏にはその日常を記録した映像作品『夏休みの記録』を完成されました。

川田さんが子どもたちやお母さんたちと重ねてきた丁寧な対話からは、異国で暮らす人々の喜びや笑い、悩みや希望が伝わってきました。そして、その一つひとつが、私たちの日常と何ら変わらないものであることにも気づかされました。国籍や文化の違いを超えて、人と人とが理



Play for Peace! ～ピアノ演奏＋トーク



JUSTPEACE! & Pray for Peace! スペシャルダイアログ

解し合うことの大切さを改めて感じる時間となりました。

イベント最終日の22日には、いつも私どもの活動を応援して下さるサヘル・ローズさん（表現者）と、3年前の企画展にもご登壇いただいたトロプチン・ニキタさん（茨城県留学生親善大使）をお迎えしました。ニキタさんは、ロシアによるウクライナ侵攻直後に日本へ避難し、現在はつくば市内の大学で学んでいます。

故郷を離れ、日本で暮らしているお二人のお話からは、戦争や紛争が人々の暮らしや人生にどれほど大きな影響を与えるのかが伝わってきました。同時に、それは決して特別な誰かの話ではなく、私たち一人ひとりの人生にもつながる問題であることを考えさせられました。イラク、イラン、ウクライナ、そしてクルドの人々。国や民族、宗教、言語は異なっていますが、家族を大切に思い、平穏な日常を願い、子どもたちの未来を守りたいと願う気持ちに違いはありません。今回の企画展を通じて、そうした人々の姿に改めて思いを寄せる機会となりました。

日本で暮らしていると、戦争や紛争は遠い国の出来事のように感じられることがあります。しかし、遠く離れた地で起きている出来事を「対岸の火事」として見るのではなく、その背景にある人々の暮らしや思いに想像力を働かせること。そして相手を思いやること。その大切さを、登壇者の皆さまのお話から改めて教えられたように感じています。

トークの最後は、ニキタさんが選んだウクライナとペルシャの詩で締めくくられました。ニキタさんがウクライナの詩を日本語で朗読し、サヘルさんがペルシャの詩

を朗読してくださいました。会場は水を打ったように静まり返り、それぞれの言葉が深く心に響く時間となりました。二編の詩をここにご紹介いたします。



JUSTPEACE! ギャラリートーク

人生は進み、書き直しはできない

作者：コステンコ リーナ（ウクライナ）
（ウクライナで一番敬われていると言っても過言ではない現代の作家。）



人生は進み、書き直しはできない。
時は駆けて、歩みを緩めることはない。
遠い昔の王たちはもういない、そして私たちは、
そのすべての後に生きている。
この先に何が来るのか、私は知らない。
自然がどんな姿をまとうのかも。
ただ一つ、疲れを知らないのは時。
だからこそ、生きている私たちは急がなければならない。
何かを成し、何かを残すために。
さもなければ、私たちは影のように過ぎ去るだろう。
せめて空の青いまなざしが、この大地をいつも花
咲く姿で見つめていられるために。
この森が絶えてしまわぬように、
かつて消えた獣みたいに。
この言葉が枯れてしまわぬように、
尽きた鉱脈山みたいに。
人生は進み、書き直しはできない。
どう書くかで、そのまま未来になる。
だが、痛みを伴う一言を恐れるな。
気づきを恐れるな、それは薬のようなものだ。
たとえ苦くとも、真実を恐れるな。
たとえ川のように押し寄せても、悲しみを恐れるな。
ただ一つ恐れるべきは、人の魂をだますこと。
そこを誤れば、それは永遠に取り返しがつかない。

無題

（ペルシャで「ルバイ」と呼ばれる四行詩の一編）

ある人は宗教のことを考えながら進み、
ある人は「いや、これが正しい道だ」と
思い込んでいる。
でも私は思う、いつか声が聞こえるんじゃないかと、
「お前たち、どっちの道も違うよ」と。



イラン戦争下のチョコ募金

崔 麻里 (JIM-NET 代表理事)



2006 年から始まったチョコ募金は、皆さまの温かいご支援に支えられ、今秋で 22 回目を迎えます。

2026 年 2 月 28 日に始まったイスラエルと米国によるイランへの軍事攻撃以降、中東情勢は再び緊迫した状況となり、現在も予断を許さない状態が続いています。JIM-NET では、現地の活動への影響だけでなく、チョコ募金と Coffee for Peace ! に関わる資材や原材料の不足、価格高騰なども懸念し、3 月早々から対応策の検討に追われました。

チョコ募金に関しては、これまで 13 万個という目標を達成できたのは、全国の支援者の皆さまの温かいご支援とご協力があったからこそです。一方で、生活必需品の価格高騰や原材料不足の影響が広がるなか、日

本国内の経済情勢も先行きが見通しにくい状況が続いております。ご支援くださる皆さまの生活環境も従来より厳しさを増していることを踏まえ、これまでのご厚意に支えられてきたチョコ募金だからこそ、無理のない形で継続していくことが重要であると考えました。また、六花亭さまや製缶工場の皆さまのご厚意を無駄にするような事態は避けなければなりません。

事務局内では何度も議論を重ねましたが、活動を守り続けるための責任ある判断として、今回は目標数量を 13 万個から 11 万個への見直しを決定いたしました。この決定は決して弱気になったからではなく、チョコ募金という仕組みそのものを将来にわたって継続していくための判断です。

♡ 発表 !
2026年の
デザインは
こちら ♡



また、チョコ缶を封入する従来の OPP 袋（プラスチック製の透明袋）の発注ができずに困り果てていたところ、幸いにもチョコ缶製造の取りまとめをしてくださる会社からご紹介いただき、都内の製造会社とのご縁が繋がりました。チョコ募金の趣旨や、福祉作業所の皆さまが袋詰めに携わっていることをご理解いただき、作業しやすい仕様の OPP 袋をオーダーメイドで製作してくださいました。

こうしたご協力は、チョコ募金の活動に共感し、支えてくださる方々の善意があってこそのもです。改めて、多くの方々の思いによってチョコ募金が支えられていることを実感しております。

今年3月に呼びかけた緊急春募金には、予想を上回る多くのご支援が寄せられ、皆さまの温かな励ましに心より感謝申し上げます。今秋のチョコ募金につきましても、どうぞ変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

**緊急春募金へのご支援、
ありがとうございました！**

**5/6 ～ 6/6 の1か月間で
【238 名 / 2,512,500 円】の
ご寄付を頂戴いたしました。
皆様の温かいご支援に
心より感謝申し上げます。**

現地では停戦中、イード（犠牲祭）を祝い、笑顔で過ごすスタッフの姿もありましたが、6月に入り再び攻撃のニュースが流れたり、落ち着きません。

ウィンターコース中に始まった戦争により、院内学級は今も中断されたままですが、子どもたちが学び、成長できるよう、「サマーコース」の準備を進めています。

たくさんの笑顔がまた部屋いっぱいに広がるよう、どうか皆様も一緒に祈っていただければ幸いです。（2026年6月10日現在）



JIM-NET
アート担当

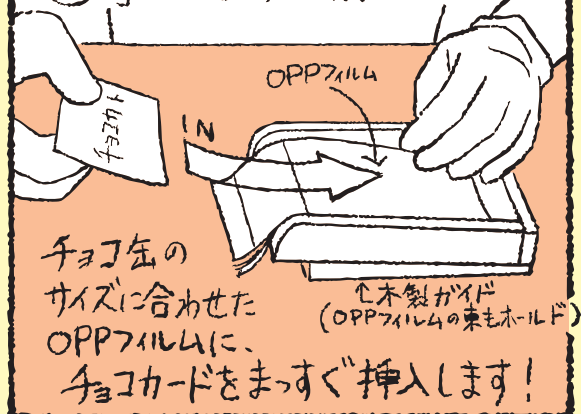
野田先生の 3コマ漫画

福祉作業所はなみずきとチョコ缶

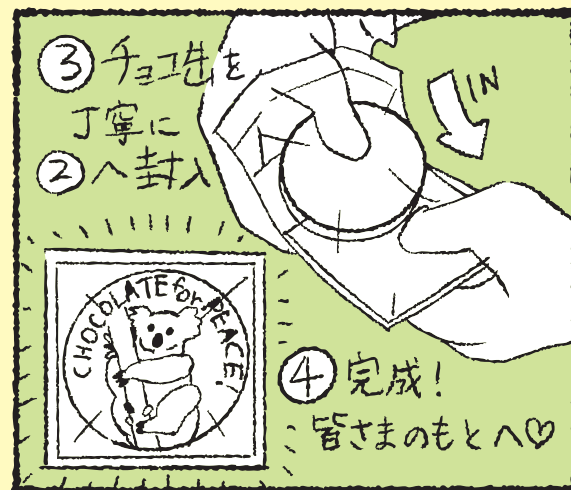
① 髪の毛の混入、汚れを防ぐため
ヘアキャップとホリ手袋を
装着します！



② 手づくりの木製ガイドで



③ チョコ缶を
丁寧に
②へ封入



④ 完成！
皆さまのもとへ♡

野田 美波子(日本国際学術大学 教授)：2015年より学生とJIM-NETのイベント、デザインワークに参加している。

お別れのご挨拶と、緊急退避のお話

大川梨恵

昨年の4月に入職し、この3月で JIM-NET を退職することにしました、駐在員の大川です。1年弱イラクで暮らしましたが、イラク、特にエルビルは本当にいいところで、水や電気などのインフラ事情に困ることもなく、安全で便利な生活を送ることができました。

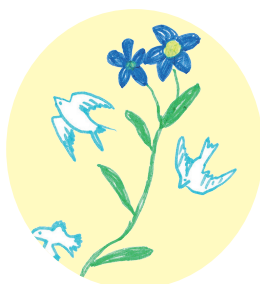
関わっていた子どもたちもみんな愛くるしく、辛いときもいつも子どもたちの笑顔に支えられていました。また、特にありがたかったのが現地での人間関係です。イラク人スタッフたちや、在エルビルの日本人のみなさんに恵まれ、楽しい時間を共にすることができました。エルビルに在住する日本人は 30 人ほど。国連や NGO、民間企業など様々なバックグラウンドの人たちがいて、定期的にみんなで集まってご飯を食べたり、シーシャを吸ったりして、親睦を深めていました。実際、2月28日にイスラエルが戦争を始めて退避することになったときも、在エルビルの日本人の方々と連絡を密に取り、無事現地企業の皆さんの車に同乗させていただく形でトルコに退避できました。「大川さん、退避どうするの？出来そう？」「いよいよとなったらドホークに逃げておいで！」と、爆撃が増え、迎撃ミサイルを見かけたり、大きな爆発音を近くで耳にするような緊張感が高まる状況でも、周りの日本人が気にかけてくださったのは私にとって大きな支えでした。

改めて、在エルビルや在ドホークの日本人の皆さんには、日常でも、非常事態でも多くの場面で助けていただいたこと、この場をお借りして感謝を申し上げます。

本当に、ありがとうございました。

さて、戦争が始まって1週間で退避することになりましたが、その道のりがまたとても長いものでした。経路としては、トルコへ陸路経由で出て、そこからイスタンブールへ飛び、日本行きのフライトで帰るというものでしたが、フライトスケジュールの兼ね合いもあり、エルビルから計5日間かけて日本に帰国しました。

ただ、何よりも大変だったのはトルコの物価です！トルコではシュルナクで1泊、イスタンブールで2泊過ごして日本行きのフライトを



待ちましたが、インフレと円安が重なり、かなり食べものの選択肢が制限される4日間となりました。1トルコリラが4円でしたが、何とケバブが1本 1250 トルコリラ。つまり時価で 5000 円ほどでした。8年前にヨルダン留学をした際、トルコへ一人旅をしたのが信じられません。あの時は、留学の奨学金で十分賄える物価だったので、イスタンブール、カッパドキア、パムッカレとあちこち回り、主要な観光地は全部巡って、パラグライダーもできました。今はアヤソフィアがおよそ 4500 円、ガラタ塔が 5500 円、地下宮殿が 7000 円と、ひとつ入るのだけでも躊躇ってしまう金額です。たった8年でこんなに変わるものか、と改めて時代の変化を感じる数日間でした。

私が中東に関心を持ち始めたのは 2011 年のアラブの春がきっかけで、そこから大学時代のヨルダン留学やパレスチナインターンなどを通じて現地に関わってきました。この 15 年を振り返ると、本当に多くのものが変わったなと感じます。

現在この記事を書いているのは 2026 年 3 月 20 日です。刻一刻と変わる情勢をニュースで見ながら、早く事態が落ち着くこと、これ以上苦しい思いをする人が増えないことを祈っています。

4月以降も、アラビア語が話せる臨床心理士として、活躍(!) 予定なので、いつかみなさまともどこかでお会いできるかもしれません。その時は、どうぞよろしく願います！

